



ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

記録的な暑さが続いたのち、例年より遅く彼岸花が咲きました。今年のUBEビエンナーレは通常より一ヶ月遅れの開催(10月27日～12月22日)となり、彫刻の丘はライトアップされています。11月24日からはTOKIWAファンタジア、ナイトミュージアムも始まり、夜の華やかなイルミネーションをご家族で愉しんでみられては如何でしょうか。それでは、令和6年度イベントの振り返りとともに、各種話題を紹介します。

てくてくまち歩き「未来湖一周と野の花みちくさ散歩」

4/27

“野の花ガイド”初めての試みです。野の花が咲き揃うには少し早い4月、参加者名簿には男性の名前が9割、男性の方々に野の花ガイド・・・不安が募ります。雨が降り出しそうな朝です。

未 来湖周遊路の入口に早咲きの夾竹桃が咲いていました。この花の仲間に垂阿相界(ああそうかい)という白い花が咲く植物がありますがご存じでしょうか？

「なんじゃもんじゃ」「きそうてんがい」おもしろい名に注目が集まりました。

あ！これは何？参加者の目がようやく植物に注がれるようになりました。途中、江戸時代宇部の領主だった福原家の家紋「かたばみ」の葉で古い10円硬貨磨きをしました。くすんでいた硬貨がピカピカです。オオ！きれいになった！歓声があがります。



幕末の水利施設「御作興」遺構

最後に幕末期に計画された「御作興」を見上げました。高さ5m程の石積みから滝のように水が流れ落ちています。常盤湖の貯水不足を補う為のものでしたが、維新の動乱でやむなく中止となった遺構です。帰路には紫色の山藤がえもいわれぬ彩りを添えています。参加者の皆様、野の花に興味を持っていただけただでしょうか？(今城)

てくてくときわ公園「時を語るもの発見！時代が流行をつくるのか、彫刻にも流行があるんです」

5/11

このコースは西駐車場～常設展示場～彫刻の丘～ぼたん園までの2kmのコースでした。以前配布された「ビエンナーレ50年のあゆみ」のパンフレットに「野外彫刻は美術分野の中でも特に社会の動きに密接に結びついているため、宇部彫刻展の展開には日本の社会・経済の歴史が濃く反映されている」とあり、彫刻にも流行があるんだと気付かされました。



土屋公雄作「底流」1991年大賞

時代に沿って、1960年代「高度成長とオリンピック」、70年代「公害と環境」、80年代「パブル景気とモニュメント彫刻」、90年代「市町村一美術館」、2000年以降「地域発アートイベント」等々の中から数点を選択し先ずは一人のガイドが作品の制作された時代の様子を紹介し、次にもう一人のガイドが作品をより深く説明する。この方法が新しい展開を生み、彫刻の持つ魅力が引き出され、皆さんの注目を集めることになりました。

ここでの「時」は時代を意味し、時代が流行をつくったのです。まさに第29回ビエンナーレがそうでした。コロナ禍の下でひとは忍

耐し、葛藤しながらも混乱の中で人との関係を一変させて行きました。作品の多くにその様子が表現されて、大賞作品にはそれが色濃く表されていました。(三輪)

てくてくまち歩き「徳川家の菩提寺増上寺の法主(ほっす)だった宇部梶返出身の道重上人の足跡を辿ってみよう」

6/8

～宇部市が生んだ偉人、道重上人の歩んだ人生は凄いです～

道重上人は、1856(安政3)年宇部村梶返にて誕生、13歳で松月庵に弟子入り、厳しい修行を重ねながらもたくさんの本を読み学問に励まれました。24歳で浄土宗最高の学問所である京大教校へ進学し、6年間極貧の中苦学されたのちは、山口や福岡の浄土宗の学校の教壇に立たれました。そして30歳の時に松月庵の第19世住職となり、36歳のときには、福岡の浄土宗の学校で再び教壇に立ち大変立派な教えをされたので、東京の浄土宗宗学本校の教授として招かれ、数々の学校や講演会にも出かけられました。また「仏学院」という私塾も作り、一般の人達が仏教の学習ができるようにされると評判になり、なんと1902(明治36)年には、明治天皇の御前で仏教についてのお話をされました。

1906(明治40)年に松月庵第20世住職が亡くなると宇部に帰り、第21世住職とされましたが、方々からお説教に招かれて忙しい毎日でした。1910(明治44)年、上人56歳の時、松月庵の名前が竹林山松月院となりました。「宇部は、いまに電車も走り、工業も起こり、賑やかになる」と言

われ、当時は住む人もいない寂しい所にお説教をする場所として新川布教所をつくり、のちに独立させ阿弥陀寺とされました。1926（大正 15）年には、開地区の守り本尊として観音様を建立したらよいと勧められ黒岩観音もできました。

東 京タワーの眼下に徳川将軍家の菩提寺・増上寺があります。1922（大正 12）年、道重上人は、山口県の小さな村からいきなり浄土宗の本山のひとつである増上寺の第 79 代の法主に選ばれました。その 2 ヶ月後に関東大震災が起り未曾有の犠牲者（17 万人）が出ましたが、その三回忌に当時は危険だった飛行機に乗り犠牲者の為に宗派を問わず回向をされました。ラジオでお説教をされたりと奇抜な発想をする上人は「今一休」と呼ばれました。

大 変忙しい日々をおくられていた上人は、その後体調を崩し宇部の阿弥陀寺で静養されていましたが、1934（昭和 9）年 1 月、79 歳で人生の幕を閉じられました。市民葬が行われ、のちに「宇部の神様」と言われた渡邊祐策氏らが弔辞を読まれました。しかし同年 7 月、渡邊祐策氏も 70 歳で逝去されました。

高 野義祐著「新川から宇部」には、こう書かれています。「昭和 9 年は、宇部の生んだ日本的伝説的偉人を二人まで失った思い出深い年だった。中央でも地方でも重きをなした人物に匹敵する人達は今後当分は出ないであろう」（安井、脇）

てくてくまち歩き「三つの亀と山口宇部空港周辺の江戸期道を歩く」

6/29

山 口宇部空港を出発・終着として、江戸時代に伊能忠敬により正確に計測された（埋立前の）草江の旧海岸線を歩いた。この周辺は、江戸時代から戦前・戦後に至るまで様々な開発が行われており、その歴史も興味深い。

まずは、山口宇部空港滑走路横にあった「鍋島」。鍋島は、1999（平成 11）年、同空港の滑走路延

伸工事により、埋め立てられて消滅したが、場所を少し移して記念のミニ鍋島が作られている。



末留大明神廟碑

東 に移動して、『則貞の浜』を臨む。ここが第①の「亀」。後方に見える丸山公園は以前「亀山」と呼ばれ、上空から見ると丸い亀が伏せたような形をした岩山である。戦後間もない頃は、この浜にウミガメが産卵に来ていたが、この辺りは、満潮時には水面下であった。

北 に少し移動して『塩濱（塩田）跡』に到着。埋立前の海岸線辺りだ。江戸時代、長州藩は「入浜式塩田」という、干満差を利用して海水を塩田に引き込む手法を取っており、毛細管現象で付着した塩分を「塩釜」で煮詰めて、塩を効率良く製造していた。その跡地を見学。

西 に移動して『末留大明神廟碑』。ここが第②の「亀」。常盤湖を築堤した宇部の領主福原公の家臣・椋梨権左衛門俊平の偉業を称えたもので、小田村直道（吉田松陰の妹と結婚した楯取素彦の養父）が碑文を寄せている。「亀趺」という、中国の四神の一つである「玄武」を象ったものを台座にしている。常盤湖の築造により、草江、野原、梶返等は稲田が出来るようになった。以前は「末留大明神」の社が隣に存在したが、1969（昭和 44）年、現在の常盤神社（ときわ湖）に合祀され、今は残っていない。



塩濱跡付近

ここからは、江戸時代の海岸線を西に真っ直ぐ辿ることができる。まさに『伊能忠敬測量隊測量

の道』である。直線状に小高い箇所も多くあり、実際に目で旧岸壁跡とわかる。伊能忠敬隊の測量の正確さは比類ないほどで、人工衛星で同所を撮影した写真と測量図がほぼ一致する。ちなみに忠敬の測量は「間縄（けんなわ）」という 1 間（1.82m）が測れる器具等を利用したが、最初の蝦夷地では歩幅（約 70 cm）で測量したと云われている。

さらに西進し、現在スーパーまるきがある周辺は、1929（昭和 4）年から 1938（同 13）年にかけて『宇部航空輸送研究所』があった所である。すでに観光地として人気のあった別府への商業飛行を計画していたという。実現はしなかったが、同所は戦後に沖宇部炭鉱の社宅となり、更に宇部空港開港へつながる。先人は空港の適地として判断していたのだ。

其処からさらに西へ、伊能忠敬の測量図に『御崎』とある箇所に進む。現在の岬地区辺りだが、小高い丘に上がると江戸時代は 180 度以上の景色が見渡せた、西は下関、東は秋穂の方までつながる海岸線を実感することができる。ここから南進し、山口宇部空港に戻っていく。



防音丘から亀ヶ瀬灯標を確認

宇 部空港の『防音丘』は、1979（昭和 54）年のジェット化に伴い造成されたものである。現在は林となっているが、その丘陵の上から滑走路を超えた先に第 3 の「亀」、『亀ヶ瀬灯標』が見える。宇部岬漁港はこの灯標がある辺りまで岩礁があり水深が浅いため、目印として設置された。防音丘からは、少し右方向に大分の由布岳と鶴見岳が見える時もあり、格好のビュー・スポットである。

防音丘を下り、ゴールは出発した宇部空港西駐車場。途中、飛行機の離着陸も見学し、2 時間で約 5 km のまち歩き、天候にも恵まれ

て無事終了した。(信濃)

てくてくまち歩き「まちのなか のもので『何故ここにあるのか』 を知りたくありませんか」

9/28

残暑の厳しい中、参加者24名は神原公園、宇部水道局向かいの3つの碑、青少年会館、警察署、神原小学校、覚宝寺、琴芝小学校と歩きました。

1926(大正15)年皇太子殿下(のちの昭和天皇)が宇部に行啓された折、神原小学校が宇部市民の歓迎奉祝会場でした。そのころから市民の間で「市の行事が行える広場が欲しい」という声が高まり、1928(昭和3)年天皇即位御大典を記念して神原公園は造られました。現在の裁判所より南は広場で競技場として使われていました。古い写真で公園内に立つ福原越後公銅像(戦時中に供出)や現JR宇部線側の入口の橋や競技場を見て、昭和初期の広い神原公園を想像しました。



神原公園

参宮道路交通安全碑は琴崎八幡宮の一の鳥居(コンクリート製)を道路事情により1968(昭和43)年取り壊した後、建立されました。参加者全員で手前に塩田川と渡内川の合流、後ろに神原小学校の昔の校舎が見える古い大鳥居の写真を見ました。「覚えている」と言われる参加者もありました。

隣には皇太子御成婚記念参宮道路の碑があります。参宮道路は琴崎八幡宮に参拝するための道です。市制施行に際して生まれた寺ノ前(農村部)と新川(新興都市部)の対立をやわらげ、周防灘を通る外国船から琴崎八幡宮がわかるように八幡宮の正面からまっすぐに海岸まで道をつけました。

神原耕地整理組合記念碑は1911(明治44)年に起工、1915(大正4)年に竣工した大工事を記念したものです。鉱害の復旧作業も兼ねた耕地整理でした。勤労青少年会館は1967(昭和42)年に建設されたもので、解体中でした。「青少年会館ができる前は動物園でしたね」「青少年会館で陶芸をしていました」と参加者が話されていました。その中庭に星出の森はありました。第13~15代宇部市長で、“彫刻の街・宇部”の育ての親、故星出寿雄さんを顕彰し、一周忌にあたる1970(昭和45)年に市民の有志によってつくられました。佐藤忠良「冬の子ども」の台座には「公害にとりくみ緑化と青少年の育成に力をそそぎ文化の香り高い町づくりに尽くした星出さんを記念して」と記されていました。現在「冬の子ども」は図書館の前庭に移設されています。

警察署に設置されている河崎良行「球形のフォーメーション」、神原小学校前庭の皇太子殿下行啓記念碑、かつて常盤町にあった覚宝寺を見て、厳島神社は残暑も厳しく少し遠いのでパスして歩きました。

琴芝小学校の入口に山口県立宇部高等女学校跡の碑があります。1913(大正2)年創立の私立済美女学校が始まりで、のちに県立宇部南高等学校となり、1950(昭和25)年県立宇部高等学校に統合されました。

神原公園に戻って池のそばで、かつて池の中に設置してあったファルコネ「ゆあみする女」の写真を見て解散しました。(池田)

関西村野藤吾建築物ツアー

渡辺翁記念会館と同じ設計者による建築群が、日本中の建築ファンの目的地として知られていることはご存じでしょうか。

村野藤吾(1891-1984)は、戦前戦後を通して、大阪市内に

事務所を構えていました。そのため、関西エリアには多くの村野建築が残っています。

この夏、ガイドの学習のためという口実で、有志数名が有名な建築物を少しだけ訪れました。一つ一つの報告は、この紙面では出来そうにないので、今後、関西を訪れる際の参考になるような情報をご紹介します。



ザ・プリンス京都宝ヶ池の螺旋階段
村野藤吾最初の作品(日本基督教団南大阪教会)および旧村野・森建築事務所は阿倍野駅近くにあり、村野と近畿日本鉄道との関係は深く、上本町ターミナルや本社ビル、各地の近鉄駅舎(橿原神宮前、賢島)、ホテルなどを手掛けています。東梅田駅近くの梅田換気塔も村野の設計とは驚きです。

村野が終生住んでいた宝塚市にも市庁舎やカソリック宝塚教会があり、近くには非公開の教会施設、大学など、大切に使用されているとのことです。今回の旅では日程の都合上、足をのばすことは出来ませんでしたが、尼崎、神戸市内、兵庫南エリアにも、震災を耐えた建物が残っています。京都の方であれば、ああ、あそこ、と言われる京都プリンスホテル(現ザ・プリンス京都宝ヶ池)とウェスティン都ホテルがあります。プリンスホテルは、建築当初の造作を比較的残して運営されていますので、ザ・プリンス箱根芦ノ湖もおすすめです。



ウェスティン都ホテル京都 佳水園
村野の建築について、私達は専門的な知識や解説は出来ませんが、愛好家としての視点から、楽

しんでいます。入口から広がる非日常的なファサード、少し宙に浮いたような階段は螺旋を描いて昇っていきます。色々な意味で贅沢な空間ながらも、どこかすっきりとした人間味のある佇まい。この階段の狭さはヒストリアの階段と同じ！贅沢な大理石の使い方は渡辺翁記念会館だよね、などと、現地の方と盛り上がります。

残念ながら壊されていく建物もありますが、まだまだ首都圏と西日本を中心に村野作品は残っています。さあ、次は何処へ行きましょうか。みなさんも、宇部を起点に村野建築の旅をしてみませんか。（遠藤）

訪ねたところ

- 宝塚市内：宝塚市役所、カソリック宝塚教会
- 大阪市内：梅田換気塔、日本基督教団南大阪教会、旧村野・森建築事務所、シェラトン都ホテル大阪、上本町ターミナル、近畿日本鉄道本社ビル
- 京都市内：ザ・プリンス京都宝ヶ池、湯豆腐嵯峨野、ウェスティン都ホテル京都

宇部市ふるさとコンパニオンの会 30周年を迎えて

平成元年 8 月、宇部市の「ふるさと創生事業アイデア募集」が行われました。市民からの応募は 100 点余りでその中で選ばれた事業の一つが、「コンパニオンの養成」でした。竹下内閣の下でのバブルの時代、各市区町村ごとに一億円で地域振興を考えるとというなかで、宇部市は彫刻のあるまちづくりと人材養成に力を注ぎました。「コンパニオンの養成」事業は、当時の厚東郷土史研究会の沖金吾会長のアイデアで、「宇部市の歴史、文化、産業、観光などを、内外に紹介し、案内ができるようなコンパニオンを養成する。このコンパニオンは、市民の学習会などには講師となる。……自ら進んで郷土を愛し、『やる気』のある市民から選び、身分はボランティアとする。

ふるさと創生事業のねらいは二つ。第一は『宇部に生まれてよかった。宇部に住んでよかった。宇部は本当によいところだ』と、市民の誰もが、この素朴な心根を抱いてもらいたい。このためには、宇部の歴史を学び、現在の宇部を知り、そして宇部という

郷土の素晴らしさを再発見することにある。第二のねらいは、とにかく宇部に人が来てもらいたい。人が集まってもらいたい」というものでした。

平成 3 年から 3 年間の養成講座を終えて平成 6 年 4 月に発足し 30 年が経ちました。当時 33 名だった会員のうち女性 4 名が継続してガイドしていますが、数年おきに養成講座を修了した新しい会員も入れて現在 29 名が在籍しており、市内外から社会見学でときわ公園を訪れる小学生に動物園や世界を旅する植物館、石炭記念館、常盤湖の歴史などを中心に、大人向けには「てくてくまち歩き&ときわ公園」、「古地図を片手にまちを歩こう」の上宇部・小串・藤山の 3 コース、また諸団体からのご要望に合わせてガイドし、会員一同自らの生涯学習をしながら活動しています。

第 30 回 UBE ビエンナーレも始まりました。火曜日を除き 12 月 22 日（日）までの毎日 10:00~16:00、交替で 2 名ずつ彫刻の丘に待機し来場される方々に彫刻の魅力を発見するお手伝いをしたいと張り切っております。是非、ときわ公園にお越しくださいませ。（脇）

てくてくまち歩き & ときわ公園 古地図を片手にまちを歩こう 予定表

日時	集合場所・距離	内容
12/7 (土) 9:30~12:00	ときわスポーツ広場 管理棟前 約 5 km 多目的広場に駐車	てくてくときわ公園 「ときわ湖の水はどこから入ってくるの？」 宇部ときわ湖畔ユースホステル、長尺リのエゴ、常盤用水路、開八王子社、ココランド山口宇部東側の水路
12/14 (土) 9:50~12:00	琴崎八幡宮バス停後ろ の駐車場 約 3.5 km	古地図を片手にまちを歩こう上宇部西 「江戸時代、宇部を治めた福原氏は中尾に田屋（御館）を構えました」福原邸跡、維新館跡、鎌田橋、中村地蔵尊、琴崎八幡宮
1/7 (火) 10:00~11:00	琴崎八幡宮バス停後ろ の駐車場 約 1.8 km	親子連れや歴史に詳しくない方にも気軽に楽しめる古地図を片手にまちを歩こう やさしいコース 「宇部発祥の地『上宇部』で(?) などところを探してみましょう」
1/11 (土) 9:30~12:00	厚南市民センター (厚南中央三丁目 1-2) 約 5 km	てくてくまち歩き 「厚南開作の守護神を巡る」 かつて海だった土地の上開作、中野開作、妻崎開作それぞれに祀られた守護神の少童神社、埴安神社、妻崎神社へ参拝
1/26 (日) 9:50~12:00	藤山ふれあいセンター (文京町 11-13) 約 4 km	古地図を片手にまちを歩こう藤山 「廻船業で栄えた藤曲村」 「犬尾」と書いていた居能、かつての海岸線に沿って「犬の尾っぽ」歩き

■申し込み、お問い合わせ ※定員 30 名、受付は開催日の一ヶ月前からです。当日連絡先 090-9060-9752 (脇)

てくてくまち歩き 古地図を片手にまちを歩こう	宇部市観光交流課	TEL(34)8353	FAX(22)6083
てくてくときわ公園	宇部市ときわ公園課	TEL(54)0551	FAX(51)7205

